

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	レストランサービスⅢ		(NGH22R)
講義名 (コード)	レストランサービスⅢ		(NGH22RX)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	宮下 裕衣	時間数	30
成績評価教員	宮下 裕衣	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	卒業後、就職先で即戦力になれるサービス技術を習得する
全体の内容と概要	ケーススタディを用いて実際の現場で起こりえるシチュエーションを想定して実習を行う。お客様が満足できるサービスについて学びながら問題が起こった際の対応も考える。
授業時間外の学修	特になし
履修上の注意事項等	指示があるとき以外は携帯使用禁止

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	日本の年中行事について知ることができる	日本の年中行事、それにまつわる食べ物について知り、ホテルのレストランが使われやすいタイミングについて考える
2	日本の年中行事について知ることができる	日本の年中行事、それにまつわる食べ物について知り、ホテルのレストランが使われやすいタイミングについて考える
3	お客さまに興味を持ってもらえるフェアを考えることができる。	レストランのフェアを考える① レストランのスタイルやテーマ・ターゲットを決める
4	お客さまに興味を持ってもらえるフェアを考えることができる。	レストランのフェアを考える② レストランのテーマに沿ってイベントを考える
5	お客さまに興味を持ってもらえるフェアを考えることができる。	レストランのフェアを考える③ レストランのテーマに沿ってイベントを考えてまとめる
6	フェアをPRする方法を考えることができる	レストランのフェアを考える④ イベントをPRするための広告を作成する
7	フェアをPRする方法を考えることができる	レストランのフェアを考える⑤ イベントをPRするための広告を作成する
8	考えたフェアについて発表することができる	作成した広告を使って発表する
9	考えたフェアについて発表することができる	作成した広告を使って発表する
10	サービス業でよく使われる用語について理解できる	物の数え方や特別な言い回しなどを広く学ぶ
11	日本の商売に関することわざや慣用句を理解できる	日本でよく使われる商売上の慣用句やことわざを学び、自国のものとも比較してみる
12	改めて“サービス”について考えることができる	様々な形の“サービス”について知り、実際の様々な場面での対応を考えてみる
13	商業・経済活動について考えることができる	商業・経済用語について学び、お店や企業は単独では活動できないことを理解する
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	フィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	なし
参考文献・資料等	サービス接遇 検定試験合格テキスト&問題集
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	観光マーケティング実践 I		(NGH22A)
講義名 (コード)	観光マーケティング実践 I		(NGH22AX)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	1
授業担当者	石田 浩也	時間数	30
成績評価教員	石田 浩也	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	授業の目的・到達目標：現代のマーケティング理論と実務を総合的に理解し、観光業界に特化したマーケティング戦略を立案・実行する能力を養成すること
全体の内容と概要	1年間を通じて、価格設定、流通チャネル管理、PR、イベントマーケティング、CRM、サステナビリティなどの各種マーケティング要素の基礎について学習する
授業時間外の学修	ケーススタディの事前調査、グループプロジェクトの準備など、自主的な学習を求める
履修上の注意事項等	授業での言語は原則日本語で実施するため、ヒヤリングできる程度の日本語語学力が必要 外出することもあるかと思うので交通安全・学校への事前許可等が必要

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーションとマーケティング基本概念	授業の目的と概要説明 マーケティングの基本概念と観光マーケティングの枠組みの紹介
2	観光業界の現状分析	世界及び日本の観光業界のトレンドと統計 グループワーク: 業界分析の基本手法の学習
3	ターゲットマーケットの特定	ターゲットマーケティングの重要性と方法 グループワーク: ターゲット市場の選定と理由の説明
4	マーケティングリサーチの基礎	マーケティングリサーチの手法とデータ収集方法 グループワーク: 実際のリサーチ計画の立案
5	消費者行動の理解	観光消費者の意思決定プロセスと行動モデル グループワーク: 消費者行動分析のケーススタディ
6	観光プロダクトの開発	観光商品開発のプロセスと実例 グループワーク: 新たな観光プロダクトのアイデア出し
7	サービスマーケティングの特質	サービスと物品のマーケティングの違い グループワーク: 観光サービスのマーケティングプラン作成
8	ブランディング戦略	強力なブランドを構築するための戦略 グループワーク: 観光地ブランディングの案の作成
9	広告とプロモーション	広告の種類と効果的なプロモーション手法 グループワーク: 実際のプロモーションキャンペーンの企画
10	デジタルマーケティングの活用	オンラインマーケティングとSNSの活用法 グループワーク: SNSプロモーション戦略の開発
11	価格戦略の基本	価格設定の重要性と戦略 グループワーク: 実際の観光サービスに対する価格戦略の立案
12	流通チャネルの管理	流通チャネルとは何か、その役割 グループワーク: 効果的な流通チャネル戦略の策定
13	前期のまとめ	前期のまとめ 質疑応答
14	テスト	テスト
15	テストフィードバック	テストフィードバック 出題問題の解説

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	パワーポイント等による資料提供
参考文献・資料等	観光マーケティング入門 各種観光系雑誌
備考	出来るだけ平易な言葉や表現を使用し、学生同士のグループワークを中心に授業を展開する

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	検定試験対策 I		(NGH22P)
講義名 (コード)	検定試験対策 I		(NGH22PX)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	宮原 祥子	時間数	30
成績評価教員	宮原 祥子	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	前期学習したWordの機能の活用を学習し資格を取得する
全体の内容と概要	日商PC検定BASICレベル受験対策を中心に学習していきます
授業時間外の学修	資格試験を受験する場合は、授業内容のほかにプログラムなどで繰り返し練習してください
履修上の注意事項等	資格試験の受験はいつでも可能ですので、受験日を意識して学習してください 授業はBASICレベルを中心ですが合格者には他の検定の対策をします

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	模擬試験プログラムの操作確認	模擬試験プログラムを利用した検定試験練習
2	検定試験に出題される機能を確認する（書式設定）	演習01「新規取引のお願い」（30時間アカデミックWord&Excel2016） 検定試験に出題される書式設定確認
3	検定試験に出題される機能を確認する（インデント・タブ）	演習02「どんぐりの会ご案内」（30時間アカデミックWord&Excel2016） 検定試験に出題されるインデント・タブ設定確認
4	検定試験に出題される機能を確認する（表の編集）	演習03「レクリエーションのお誘い」（30時間アカデミックWord&Excel2016） 検定試験に出題される表の編集操作確認
5	検定試験に出題される機能を確認する（プログラム利用）	模擬試験プログラムで操作確認する 模擬1_問題3・模擬2_問題1・模擬3_問題3
6	模擬試験プログラムを利用した 検定試験練習 （FOM出版問題集使用） 受験できる学生は随時検定受験 プログラムで練習することにより 実際の試験形式の手順を習得する	模擬試験プログラム 模擬1 配置の設定・文字書式の変更，設定・定型文の入力・段落番号の設定・保存 表の配置設定・図形の装飾
7		模擬試験プログラム 模擬2 文字の装飾・配置の設定・文書の編集・ページ設定・保存 表の作成・段落罫線の作成・図形の装飾・インデント設定
8		
9		
10		
11		模擬試験プログラム 模擬3 配置の設定・文字書式の変更，設定・段落番号の設定・保存・インデント設定 表の編集・図形の装飾，配置，文字の入力
12		
13		
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	テストF B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	日商 P C 検定BASIC公式テキスト・問題集 文書作成（貸出）
参考文献・資料等	各問題集からの練習問題・プリント
備考	資格試験対策として問題集・模擬試験プログラムを利用

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	国際観光学 I		(NGH23B)
講義名 (コード)	国際観光学 I		(NGH23BX)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	株式会社ヤドロク	時間数	30
成績評価教員	株式会社ヤドロク	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	将来観光業でグローバルに活躍できる人材になるために、世界地理をベースに観光地や主要都市について学び、より高いレベルのサービスを提供する事ができるようになる。
全体の内容と概要	世界の観光地について学ぶ。日本人観光客が求めていることについて考える。 旅行企画を立てて企画をプレゼンする。
授業時間外の学修	特になし
履修上の注意事項等	プレゼンテーションを多く行うため人前でのスピーチ力が必要。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	イントロダクション～観光業について知る事ができる	観光業とはどんな種類の職種があるのか、またどのような資格や知識が必要であるのかを知る。
2	日本の地理、人気の観光地について分かる	日本地図から都道府県を確認。日本の都道府県、県庁所在地、各地の名産品クイズ。
3	世界の国と場所がわかる	世界地図を見ながら知っている国をあげてみる。その国のイメージをまとめる。
4	世界の国と主要都市がわかる	世界の国々と主要都市についてまとめる。
5	世界の国と主要都市がわかる	世界の国々と主要都市についてのまとめクイズ。
6	世界の国とその国の食文化について分かる	世界の国々と食文化、観光客に人気のグルメについて調べる。
7	世界の国とその国の食文化について分かる	世界の国々と食文化、観光客に人気のグルメについてまとめて発表する。
8	世界遺産について分かる	世界遺産とは。世界各国の世界遺産について調べる。
9	世界遺産について分かる	観光地として人気の高い世界遺産について調べてまとめる。
10	人気の高い世界遺産についてその秘密が分かる	観光地として人気の高い世界遺産について発表する。
11	世界の国と有名な観光地を知ることができる	世界の主要都市、有名観光地について場所を確認しながらまとめる。
12	世界で人気の観光地と人気の秘密がわかる	日本人に人気の海外旅行地を調べ、なぜ人気なのかをまとめる。
13	世界で人気の観光地と人気の秘密がわかる	日本人に人気の海外旅行地を調べ、なぜ人気なのかをまとめる。まとめた内容を発表する。
14	まとめと解説	世界地理、観光地まとめ 期末試験
15	まとめと解説	フィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	なし
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	国際理解 I		(NGH22V)
講義名 (コード)	国際理解 I		(NGH22VX)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	田中 清夫	時間数	30
成績評価教員	田中 清夫	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	国際理解を身につけて異文化に対する知識、スキル、態度を理解し、世界の中で効果的かつ適切に振る舞いコミュニケーションを行うことができるようにする
全体の内容と概要	現在及び過去の世界の様子を材料にして事実から考えることを学ぶ。国際的に認知されているSDG'sを通じて、世界の様子を理解しプレゼンする。
授業時間外の学修	国際理解の教科書の語彙を整理し理解する
履修上の注意事項等	グループワークを行うので、積極的に参加し発表する。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	国際理解に必要なことを理解し説明できる	オリエンテーションとして、授業の進め方を説明。グループで、国際理解に必要な項目に何があるか。また、どんな知識が必要か検討して発表する。
2	世界全図から世界の大まかな構成を理解し説明できる	世界全図を見てどんな地域やどんな国があるのか理解し自分の出身国はどこにあるのか理解する。
3	国際的な組織には何があるか理解し説明できる	どのような国際機関があるのか、グループ学習で洗い出し、国際機関の役割を理解する
4	地球と世界地図、各大陸の構成を理解し説明できる。	様々な地図と地球の姿がわかり世界の地形が理解できる
5	ヨーロッパ、アジア、アフリカの全体像が理解でき、説明できる	それぞれの地域にどんな国があり、どんな特徴があるかを理解できる
6	南北アメリカ、オセアニア、南極の全体像が理解でき説明できる	それぞれの地域にどんな国があり、どんな特徴があるかを理解できる
7	世界の気候と世界の人口の様子が理解でき説明できる	世界の気候の様子や、人口・言語の違いを理解できる
8	世界の所得と時間時差の様子が理解でき説明できる	世界の所得や時差の違いなどを理解できる
9	世界の貿易、資源・エネルギーの様子が理解でき、説明できる	世界の貿易や資源・エネルギーの状況を理解できる
10	世界の農業、水産業の様子が理解でき、説明できる	世界の農業や水産業の特徴を理解できる
11	世界遺産、世界の祭りについて理解し、説明できる	世界遺産の認定の様子が理解できる。祭りの多様性や類似性などが理解できる
12	世界のスポーツ、食の多様性について理解し説明できる	世界のスポーツや食べ物の多様性が理解できる
13	テスト準備の復習	春学期授業の全体的な復習
14	まとめとテスト	期末テスト（用語や国際機関名称役割を含む）
15	フィードバック	結果の説明

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	「世界の国大百科」「子供SDG's」
参考文献・資料等	なし
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	宿泊業務Ⅲ		(NGH22I)
講義名 (コード)	宿泊業務Ⅲ		(NGH22IX)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	1
授業担当者	株式会社ヤドロク	時間数	30
成績評価教員	株式会社ヤドロク	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	ホテル・旅館の形態について知り、即戦力の人材を育てる。
全体の内容と概要	宿泊業界・おもてなしについて学び、お客さまのことを考えた接客ができるようになる。
授業時間外の学修	特になし
履修上の注意事項等	指示があるとき以外は携帯使用禁止

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	おもてなしについて考えることができる。	サービス業におけるお辞儀の実践、日本のおもてなしがなぜすごいと言われているのか考える。
2	興味のあるホテル・旅館について調べ、まとめることができる。	泊まってみたい日本のホテル・旅館を調べてまとめる。
3	興味のあるホテル・旅館についてまとめ、発表することができる。	ホテル用語① 泊まってみたいホテル・旅館について発表する。
4	宿泊する客の求めていることについて考えることができる。	ホテル用語②、ミニテスト① 人はなぜ旅行するのか？お客さまが求めているものは何か考える。
5	お客さま目線でホテルについて知ることができる。	ホテル用語③、ミニテスト② お客さまからよく聞かれる質問を知り、発表したホテルについてより詳しく調べる。
6	スタッフ目線でホテルについて知ることができる。	ホテル用語④、ミニテスト③ お客さまに聞かれた質問への答え方を学び、ロールプレイング形式で実践してみる。
7	宿泊約款とは何か知ることができる。	ホテル用語⑤、ミニテスト④ 宿泊約款を見て、どのようなことが書いてあるか知る。
8	ホテル・旅館の宿泊プランについて知ることができる。	ホテル用語⑥、ミニテスト⑤ ホテル・旅館にはどんな宿泊プランがあるか調べてみる。
9	宿泊プランを作成することができる。	ホテル用語⑦、ミニテスト⑥ どんな宿泊プランがあったら泊まりたいか考え、グループでアイデアをまとめる。
10	宿泊プランを作成することができる。	ホテル用語⑧、ミニテスト⑦ グループでまとめたアイデアをもとに、宿泊プランを作成する。
11	宿泊プランを作成することができる。	ホテル用語⑨、ミニテスト⑧ グループでまとめたアイデアをもとに、宿泊プランを作成する。
12	作成した宿泊プランについて発表することができる。	作成した宿泊プランについて発表する。
13	作成した宿泊プランについて発表することができる。	作成した宿泊プランについて発表する。
14	まとめと解説	テスト
15	まとめと解説	フィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	なし
参考文献・資料等	日本の宿 おもてなし検定初級 公式テキスト
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	日本語コミュニケーションⅢ		(NKT22M)
講義名 (コード)	日本語コミュニケーションⅢ A		(NKT22MA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	岩岡 夏子	時間数	30
成績評価教員	岩岡 夏子	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	通常のビジネス会話のみならず、相手の心情を理解し適切な言い回しをすることでコミュニケーション力を高めることができる。
全体の内容と概要	日本語能力試験N2の文法と語彙を学んでいく
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	理由を相手に伝えることができる	文法（につき、を問わず、に限り） 語彙（第1回）
2	条件に合わせて希望を伝えることができる	文法（に応じ、にかかわらず、において） 語彙（第2回）
3	文法を用いて案内ができる	文法（際に、こと、Check） 語彙（第3回）
4	まとめ問題で8割正答できる	文法（まとめ問題） 語彙（第4回）
5	同じ状態について説明できる	文法（以来、をはじめ、のもとで） 語彙（第5回）
6	補足説明できる	文法（はもとより、ものだ、上で） 語彙（第6回）
7	自らの判断を相手に伝えることができる	文法（ものだ、上で、ながら） 語彙（第7回）
8	代替表現を使用できる	文法（Check、とした、きっかけ） 語彙（第8回）
9	強い意志を伝えることができる	文法（からには、やってみよう、わけではありません） 語彙（第9回）
10	完了表現をしようできる	文法（ことなく、にもかかわらず、Check） 語彙（第10回）
11	まとめ問題で8割正答できる	文法（まとめ問題） 語彙（第11回）
12	資格、用途について述べることもできる	文法（として、限り、ざるを得ない） 語彙（第12回）
13	不確定要素を含んだ言い方ができる	文法（というものではありません、はともかく、かねません） 語彙（第13回）
14	まとめと解説	期末試験
15	まとめと解説	期末試験FB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	TRY! 日本語応力試験N2 ドリル&ドリルN2文字語彙
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	日本語コミュニケーションⅢ	(NKT22M)	
講義名 (コード)	日本語コミュニケーションⅢ B	(NKT22MB)	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	江島 香菜子	時間数	30
成績評価教員	江島 香菜子	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	ビジネス会話レベルの日本語能力の習得
全体の内容と概要	CEFR C2レベルの日本語の読解・聴解の学習
授業時間外の学修	日常生活で意識して使う
履修上の注意事項等	資格試験に申し込むこと

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	読) 内容が理解できるようになる 聴) 模擬試験 1	中文を読む(練習55.56) 模擬試験(問題1) +M79:AD99E11M79:AD87
2	読) 主張が理解できるようになる 1 聴) 模擬試験 1	長文を読む(例題29.練習57) 模擬試験(問題2)
3	読) 主張が理解できるようになる 2 聴) 課題が理解できるようになる	長文を読む(練習58.59.60) 課題を理解する(例題1)
4	読) 主張が理解できるようになる 3/ 統合理解ができるようになる 1 聴) ポイント理解ができるようになる	読) 長文を読む(練習61)/比較して読む(例題30.31) 聴) ポイントを理解する(例題2)
5	読) 統合理解ができるようになる 2 聴) 概要が理解できるようになる	読) 比較して読む(練習62.63.64) 聴) まとまりのある話を聞いて、主題を判断する(例題3)
6	読) 統合理解ができる 3/情報検索ができるようになる 1 聴) 即時応答ができるようになる	読) 比較して読む(練習65)必要な情報を探す(例題32.33) 聴) ふさわしい答え方を判断する(例題4)
7	読) 情報検索ができるようになる 2 聴) 統合理解ができるようになる	読) 必要な情報を探す(練習66.67.68) 聴) 情報整理しながら聞く(例題5.6)
8	読) 情報検索ができるようになる 3 聴) 音声の特徴が理解できるようになる	読) 必要な情報を探す(練習69.70) 聴) 似ている音を聞き分ける(練習1)/音の変化や縮約形を正しく判断する(練習2-1.2-2)
9	読) 模擬試験1 聴) 最初の文が理解できるようになる 1	読) 模擬試験(問題1~4) 聴) 会話の状況や主題を聞き取る(練習1-A.B.C)
10	読) 模擬試験2 聴) 最初の文が理解できるようになる 2	読) 模擬試験(問題5~7) 聴) 会話の状況や主題を聞き取る(練習1-D.E)
11	読) 模擬試験3 聴) 返事の文が理解できるようになる	読) 模擬試験(問題8~11) 聴) 返事の文を聞いて、気持ちを判断する(練習2)
12	N1 読) 文章の仕組みを理解できるようになる 1 聴) 課題理解ができるようになる 1	読) 他のものと比べる(例題1.練習1.2) 聴) すべきことを考える(例題1-1.2/練習1-1.2)
13	読) 文章の仕組みを理解できるようになる 2 聴) 課題理解ができるようになる 2	読) 他のものと比べる(練習3.4) 聴) 優先される課題を判断する(例題2.練習2)
14	前期のまとめ	期末試験
15	まとめと解説	期末試験FB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	【読解】 完全マスターN2/完全マスターN1 【聴解】 完全マスターN1
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	日本語資格対策Ⅲ		(NKT220)
講義名 (コード)	日本語資格対策Ⅲ		(NKT220B)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	田中 清夫	時間数	30
成績評価教員	田中 清夫	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	適切な言い回しを学ぶことで語彙力と文法の知識を獲得し資格試験取得を実現する
全体の内容と概要	語彙については、テスト形式で実践的に習得する。文法については、形式と用法を用例を通じて習得する
授業時間外の学修	実力向上には特に復習が重要
履修上の注意事項等	JLPT合格に向けて意欲的に授業に取り組むこと

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	「オウエフナーンヨフ」これから学ぶ教科書について理解できる	TRY: 教科書の構成と今後の授業の進め方を説明する。文字語彙についても教科書の構成と授業の進め方を説明する。それぞれ、項目について授業を開始する
2	文法については「取引先で」の文が読める。社外の人との簡単な受け答えができる。文字語彙は、実践的な問題に回答できる。	TRY: 「・・・お見えになりました」「・・・願えますか」「申し上げたい」の用法を習得する 文字語彙: 第29回の問題を習得する
3		TRY: 「・・・ればと思います」「・・・につきましては」の用法を習得する 文字語彙: 第30回の問題を習得する
4		TRY: 8章のまとめ問題を習得する。 文字語彙: 第1回から3回の問題を習得する
5	文法については「身近な話題について友達と自然な表現を使って話せる」が理解できるようになる。自然な表現ができることを目指す。文字語彙は、実践的な問題に回答できる	TRY: 「・・・のなんのって」「・・・たて」「・・・ったら」の用法を習得する 文字語彙: 第4回から6回の問題を習得する
6		TRY: 「・・・ようになっている」「・・・わけだ」「・・・どころか」の用法を習得する 文字語彙: 第7回から9回の問題を習得する
7		TRY: 「・・・ようじゃ」の用法を習得する。食べ放題(2)の文章がわかる 文字語彙: 第10回から12回の問題を習得する
8		TRY: 「・・・ぶってもしようがない」「・・・に限って」「・・・ことだよ」の用法を習得する。文字語彙: 第13回から15回の問題を習得する
9	同上	TRY: 「・・・という」「・・・ところだった」「・・・くらいなら」の用法を習得する 文字語彙: 表記第1回から3回の問題を習得する
10		TRY: 「・・・ました」の用法を習得する。第9章のまとめの問題を解く 文字語彙: 表記第4回から6回の問題を習得する
11	文法についてはエッセーを読んで、筆者の考え方や感じ方が理解できる。文字・語彙は実践的な問題に回答ができる	TRY: 「・・・ものがある」「・・・まい」「・・・につけ」の用法を習得する。 文字語彙: 表記第7回から9回の問題を習得する
12		TRY: 「・・・わりには」「・・・か・・・かのうちに」「・・・げ」の用法を習得する 文字語彙: 表記第10回から12回の問題を習得する
13		TRY: 「・・・やら・・・やら」「・・・かと思うと」の用法を習得する。10章のまとめの問題を解く。 文字語彙: 表記第12回から15回をする
14	前期まとめと解説	前期テストを実施する
15	前期まとめと解説	テスト結果をフィードバックする

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	TRY文法から伸ばす日本語日本語能力試験N2 日本語パワードリルN2文字・語彙,ドリル&ドリルN2文字・語彙、短期合格N1N2語彙
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	旅行業務Ⅲ		(NGH22T)
講義名 (コード)	旅行業務Ⅲ		(NGH22TX)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	浅沼 由希	時間数	30
成績評価教員	浅沼 由希	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	日本・長野県の地理や文化を学び、各地の観光地について学ぶことでより良いサービスを提供することが出来るようになる。
全体の内容と概要	観光地や日本について満足度の高い丁寧な案内が出来るように実習を行う。
授業時間外の学修	なし
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	授業内容を理解できる	授業の進め方の説明
2	都道府県について知ることができる	都道府県の場所の確認
3	日本の観光地について知ることができる	日本の観光地は、どんなところがあるか学ぶ
4	日本の観光地について知ることができる	それぞれの興味がある場所を調べる
5	日本の観光地について知ることができる	調べた場所を発表する
6	各地の名産品、食、文化を知ることができる	観光地の魅力を学ぶ
7	各地の名産品、食、文化を知ることができる	観光地の魅力を調べる
8	旅行プランを作ることができる	自分の興味のある場所を詳しく調べてまとめる
9	旅行プランを作ることができる	旅行プランを発表する
10	観光地を案内できる	実際に案内する。フィールドワーク
11	観光地を案内できる	まとめクイズ
12	学んだことをアウトプットできる	テーマを決めて調べる
13	学んだことをアウトプットできる	テーマを決めて発表する
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	期末テスト・フィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	独自資料 地球の歩き方・日本
参考文献・資料等	観光地のパンフレット
備考	なし